

令和 4 年 5 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03059

研究課題名(和文) 中世書状史料論の展開

研究課題名(英文) the historical source research on Japanese medieval-times letters

研究代表者

末柄 豊 (Suegara, Yutaka)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：70251478

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本中世における多様な文書のなかにあつて、史料として利用することが相対的な困難な書状および仮名消息について、史料として活用するための基盤を形成することを目的とした。具体的には、天皇家・三条西家・山科家などが伝えた史料を中心に扱った。文書群・史料群あるいは特定の人物の書状に注目することで、書状の史料としての活用の可能性を示すのと同時に、書状読解の道具や教材を作成することで、今後における活用を促した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本中世に関する歴史研究の素材となる古文書のなかで、相対的に活用がすすんでいない書状について基礎的な研究をおこなった。

古文書のうち研究材料として活用がすすんでいる公文書は、現代的な感覚でいえば、書類と呼ぶべきものであり、第三者の目に入ることが想定されるだけに、差出人と宛先人とのあいだで自明のことでも、きちんと明記されることが多い。それに対して私人間で交わされた手紙という性格が強い書状は、両当事者のあいだに諒解のある事項は明示されず、文面が簡潔なものとなり、活用が難しい。このような書状を工夫して読み解けば、当時の人びとの生活の具体相、さらには感覚や思考法を知ることにつながるのである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to form the basis for utilizing letters and letters under pseudonyms as historical documents, which are relatively difficult to use as historical documents among the various types of documents in medieval Japan. Specifically, this project focused on historical documents handed down by the Emperor's family, the Sanjonishi family, the Yamashina family, and others. By focusing on a group of documents, a group of historical records, or a letter of a specific person, the possibility of using the letter as a historical document was demonstrated. At the same time, by creating tools and teaching materials for reading and understanding the letters, we have promoted their future use.

研究分野：日本中世史

キーワード：中世史 史料論 書状 仮名消息

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中世文書についての史料学的な研究は、多くの成果が積み重ねられているが、その大半は権力者の発給する公文書、あるいは売買等の契約に関する証文を対象としたものである。私人間の御通文書たることを基本とする書状は、大量に残存しているにもかかわらず、注目されているとはいいがたい。また、公文書にあっても仮名で記された女房奉書については、研究の対象となることが少ない。さきに「中世書状史料論の試み」と題して科研費をうけて研究をすすめ、一定の成果をあげたと考えるが、対象は龐大といってもよく、さらに研究を重ねる必要が大きい。

2. 研究の目的

本研究の目的は、多様な中世文書のなかにあつて、史料として利用することが相対的に困難だといえる書状および仮名消息について、史料として活用するための基盤を形成し、その広範な利用をうながすことにある。文書群・史料群への注目、特定の人物の書状への注目という両様のアプローチによる、活用のための方法論を示すのと同時に、書状を積極的に活用することで、その史料としての可能性の高さをアピールしたい。あわせて、仮名消息(女房奉書を含む)を中心とする書状を読解するための自習教材や、工具類の充実につとめ、後進の育成につなげることも企図した。

3. 研究の方法

禁裏(天皇家)・近衛家・三条西家・甘露寺家・山科家あるいは寺院などの旧蔵にかかる室町時代の書状・仮名消息(女房奉書を含む)を主要な素材として、文書群・史料群への注目、特定の人物への注目という両様のアプローチにより、書状を史料として活用する方法論を鍛えるのと同時に、その可能性を提示する。同時に書状なかんずく女房奉書に代表される仮名消息について詳細な解読を含む論文、および読解のための自習教材などを公表することで、書状の史料としての利用を広く促す。

4. 研究成果

本研究による主要な研究成果は以下の通りである。

(1) 大和文華館所蔵双柏文庫に残る三条西実隆の手になる散らし書の仮名消息2通について、釈文・通釈・解説を含み込んだ論文を公表し、仮名消息の読解の事例を提示するとともに、禁裏および伏見宮旧蔵文書の伝来の様態を検討した(「双柏文庫の三条西実隆消息二通」)。

(2) 禁裏文書(東山御文庫所蔵文書だけでなく、元来禁裏文書であったが、江戸時代のうちに禁裏の外に流出したものを含む)を中心にすえ、後柏原・後奈良・正親町という戦国時代の天皇自身の手になる書状・消息を主要な素材として用い、戦国時代の天皇のあり方を検討し、著書をまとめた(『戦国時代の天皇』)。

(3) 天台宗寺門派の実相院門跡の所蔵文書について検討をすすめ、報告書『実相院文書』として、200通を超える文書群の翻刻に解説を加えて刊行した。

(4) 東京国立博物館所蔵『土佐家文書』に収められた室町幕府奉行人諏方貞通の書状を読み解き、やまと絵の絵師土佐光信が錦の御旗の政策に関与した様相を明らかにする小論を公表した(「土佐光信と錦の御旗」)。

(5) 香川県観音寺市の萩原寺に伝来する聖教「理趣三昧表白」について、紙背文書をあわせて検討することで、その史料的な性格を闡明し、南朝の天皇の伝記史料として活用することを可能にした(「萩原寺所蔵『理趣三昧表白』 後亀山天皇の生母に関する一史料」)。

(6) 明治大学図書館所蔵の三条西公条書写の除目書二種の紙背文書60通について、翻刻するとともに、史料群および個々の書状について詳細な検討を加えた解題をまとめた(『明治大学図書館所蔵三条西家本除目書』)。

(7) 宮内庁書陵部所蔵の三条西実隆書写の『除目部類』の紙背文書の群として分析を前提に、そのなかの実隆に充てた後土御門天皇女房奉書の検討をおこない、准勅撰の連歌集『新撰菟玖波集』の撰進について、同天皇がどのような意識を持って関与したのかについて明らかにした(「新撰菟玖波集と後土御門天皇 宮内庁書陵部所蔵『除目部類』紙背文書から」)。

(8) 宮内庁書陵部所蔵山科家本『言国卿記』および『山科家礼記』の紙背文書について判読および検討をすすめた。そのなかで、15世紀末期における地下楽人豊原氏の所領をめぐる動向を知る素材を見出し、これを活用することで、地下楽人の家の減少という問題について検討をおこなった(「今橋家の衰滅」近刊)。

(9) 市場に出た三条西実隆充ての六大院長慶なる伊勢の真言僧の書状を本研究費によって購入し、原本を精査することで、これが金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵『松雲公採集遺編類纂』古文書部所収「三条西家文書」として写が残されている紙背文書群のうちの1通として残されたものであることを明らかにした。

(10) 仮名消息を読解するための自習教材として、前科研(「書状史料論の試み」)で作成したWEBページ「書状史料論のために」(https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/suegara/shojo_kaken)

の増補をはかり、三条西家本にくわえて山科家本からの素材も提示した。

(11) 前科研で作成した報告書『実隆公記紙背文書花押署名総覧(公家武家編)』の続編として同僧侶女性編を作成する予定であったが、鮮明な画像の分量が必ずしも多くなかったため、冊子としての公刊は見送り、『実隆公記紙背文書花押署名総覧稿(僧侶女性編)』として、末柄のホームページから2022年度中に公開することにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 末柄豊 | 4. 巻 88 |
| 2. 論文標題 書評と紹介 木下聡編『戦国史研究会史料集7 足利義視・足利義植文書集』 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 古文書研究 | 6. 最初と最後の頁 139-141 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 末柄豊 | 4. 巻 132 |
| 2. 論文標題 双柏文庫の三条西実隆消息二通 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 大和文華 | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 末柄豊 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 新撰菟玖波集と後土御門天皇 宮内庁書陵部所蔵『除目部類』紙背文書から | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル | 6. 最初と最後の頁 24-41 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 末柄豊 | 4. 巻 882 |
| 2. 論文標題 維馨梵柱の示寂はいつか | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本歴史 | 6. 最初と最後の頁 32-34 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 末柄 豊 |
| 2. 発表標題 戦国時代の土佐派の活動 文書・記録から見る |
| 3. 学会等名 特別展「土佐光吉 戦国の世を生きたやまと絵師」講演会（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 末柄 豊 |
| 2. 発表標題 室町・戦国時代の天皇・朝廷 |
| 3. 学会等名 文京アカデミー 東京大学史料編纂所協力講座「前近代の天皇・朝廷」第3回（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 末柄 豊 |
| 2. 発表標題 穴戸司箭の実像を探る 司箭院興仙と細川政元 |
| 3. 学会等名 2018年度安芸高田市歴史民俗博物館公開講座第6回（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 末柄豊 |
| 2. 発表標題 応仁の乱と戦国の動乱 |
| 3. 学会等名 シンポジウム近江戦国史 「戦国近江の幕開け」（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 末柄豊 |
| 2. 発表標題 後南朝と因幡国 |
| 3. 学会等名 新鳥取県史資料編古代中世2古記録編刊行記念講演会「古記録で読み解く古代中世の鳥取」(招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計6件

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 前田育徳会尊経閣文庫、尾上 陽介、末柄 豊、高橋 典幸 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 八木書店出版部 | 5. 総ページ数 272 |
| 3. 書名 公秀公記・実隆公記・建治三年記 | |

| | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1. 著者名 落合博志、牧野和夫、末柄豊ほか9名 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 臨川書店 | 5. 総ページ数 401(担当37-54) |
| 3. 書名 寺院文献資料学の新展開第5巻 中四国諸寺院 | |

| | |
|------------------|-----------------|
| 1. 著者名 末柄 豊 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 山川出版社 | 5. 総ページ数 120 |
| 3. 書名 戦国時代の天皇 | |

| | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. 著者名 末柄 豊 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 堺市博物館 | 5. 総ページ数 87のうち70-71 |
| 3. 書名 土佐光吉 戦国の世を生きたやまと絵師 | |

| | |
|------------------|-----------------|
| 1. 著者名 末柄豊 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 山川出版社 | 5. 総ページ数 114 |
| 3. 書名 戦国時代の天皇 | |

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 前田育徳会尊経閣文庫、川本 慎白、末柄 豊 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 八木書店出版部 | 5. 総ページ数 272 |
| 3. 書名 蔗軒日録・盲聾記 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| 書状史料論のために http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/suegara/shojo_kaken |
|--|

6. 研究組織

| | | | |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|